

視聴覚教育

NO 188

発行日
4.12. 1発行
岡崎市AVL

編集

広報委員会

第四十三回放送教育研究会

全国大会に参加して

視聴覚指導員 高木 和広

第四十三回放送教育全国大会は和歌山市で開催され、十一月十二日（木）と十三日（金）の両日にわたって行われた。本大会の開催県である和歌山県は、放送教育発祥の地と言われている。昭和二十四年八月に高野町（高野山）で放送教育全国大会第一回が開催されている。なお、その時の大会主題は、「学校放送とカリキュラムの問題」であり、会場に入り切れない参加者も出るほどであったと伝えられている。

本年度四十三回大会の研究主題は、次のとおりである。
豊かな人間の形成をめざし「自ら問いかけ行動する」
放送教育をすすめよう

大会一日目は、校種別全体会から始まった。五校種（幼・保、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校）で行われ、小学校全体会に参加した。小学校の研究主題は、全体の研究主題を受けて、「新しい時代を個性豊かな

に生きるために「自ら問いかけ行動する」放送教育をすすめよう」とされ、パネルディスカッション形式で進められた。その中でとくに参考になったのは、東京学芸大学教授多田俊文氏の、直接経験と間接経験のかかわりをどうとらえるか、個性的とはどうあるべきかという点である。

総合全体会では、開会行事・記念講演・閉会行事が行われた。その中の記念講演の講師はイーデス・ハンソン氏であり、「私の日本観」と題して話された。いろいろな場で活躍されており、聴衆の雰囲気をつかみ、それに合わせた間の取り方、話し方などさすがであった。内容にしても日々の出会いの中での具体的な事例であり、わかりやすく興味深いものであった。何気なしに行っていることが、外から見ると奇異なものと映ることも気づつかされた。

二日目は、校種別に、幼稚園・保育園・学校等で授業や研究交流会等が行われ、和歌山大学教育学部附属小学校へ出かけた。学校放送番組を使つての授業であり、テレビ視聴後の話し合いもよくなされていた。

指導する上で、単元構成の中に学校放送番組を構造的に位置付けること、一時間の授業のステップを「問いかける、行動する」としたところが新しい試みと言える。

なお、放送教育とは離れるが、興味を持たされたのはオープンスペースである。話には聞いていたが、実際に見たのは初めてである。



子どもの作った

データベース

岡崎市立連尺小学校 八田 敏公

社会の授業におけるパソコンの有効な活用として、データベースがあり、昨年からは簡単なデータベースを作り、少しずつ実践してきた。今年度七月、レーザーディスクの映像をパソコンでコントロールできるシステムを利用する機会があり、同時にグラフのデータベースも活用、実践を行った。

それを受け、十一月に子どもの作ったデータベースを活用した、五年社会「貿易と運輸」の授業実践を行った。一学期の実践より、子どもでも容易にデータベースが入力できることがわかり、子どもたちの手で入力から検索、活用まで行った。友達の入力したデータベースを活用したり、自分の入力したデータベースをもとに自分の考えを述べるなど、十分に活用できたと思う。



特に、子どものデータベースの入力はユニークなものが多く、驚きであった。また話し合いの場で活用しやすいよう、視聴覚センターのモニターにパソコンの画像が出るようにしたことも効果があった。今後、子どもたちにパソコンを慣れ親しませ、いろいろな教科の学習に生かしていきたいと考えている。

ライブラリーだより

☆平成四年度購入16ミリ映画の紹介

・別に…わかんない…どつちでも…	30分	家庭教育
・気づいたときが変わるとき	31分	家庭教育
・空高く夫婦とんぼ	30分	家庭教育
・エイズの予防	20分	保健
・トントン・ユウユウの交通安全	14分	交通安全
・時計館の秘密	55分	児童劇
・金色の足あと	28分	アニメ
・太郎ヶ池の夏まつり	30分	アニメ
・ジャングル大帝 共存	24分	アニメ
・ピッケと大あざらし	23分	アニメ
・注文の多い料理店	19分	アニメ

なお、新規購入映画は、一月十一日(月)から貸し出しをします。ご利用ください。

☆親子映画会開催のご案内

十二月 六日(日)岩津市民センター
 十二月十三日(日)中央市民センター
 午前十時と午後一時より、アニメ映画三本を上映します。参加希望者は各市民センターにある整理券を持参してください。

☆お知らせ

二学期は、十二月十五日(火)が最終配達です。なお、三学期は、一月十二日(火)から配達します。

